

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの7ヶ所に理念を掲示している。全職員が出勤時理念を唱えてからホールに入っている。 全体会議時等、全員で理念を唱和し共有、実践に繋げている。	事業所独自の理念を開設時に職員と一緒に検討し作成しました。理念の実践ができるよう、玄関やホールに掲示し出勤時には必ず理念の確認をしているほか、2ヶ月に1度の全体会議でも理念を唱和する機会を設けています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設広報を近隣に配布し、ホームの行事に招いたりして、交流を図っている。また自治会や町内会の交流や地域のイベントに利用者さんと一緒に可能な限り参加している。当社取締役が町内会の役員を務め地域に貢献している。	2ヶ月に1度、事業所広報を作成しご近所や近隣の中学校、高校に配布しています。また、事業所の夏祭りや餅つき大会には地域の方にも参加してもらっているほか、地域の餅つき大会や保育園の運動会への参加、高校生の体験学習の受け入れなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会での講演や学生の職場体験を受け入れている。また認知症キャラバンメイト養成講座へ参加で話などを行っている。今後認知症サポーター講座を開催予定している。職員の採用は地元の新卒者を始め地元市民を採用している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の施設の運営推進会議に参加し自施設の取り組みにも取り入れている。施設の現状や行事等の報告をおこない、様々な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長やご家族代表、民生委員や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて、サービスの向上に繋げるようにしています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出等で分らない事があれば、電話・訪問にて確認するようにしている。広報の配布や運営推進会議録を直接提出しに行き、情報交換する様にしている。県や市主催の会議には必ず参加し意見交換及び協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者へは事業所広報や運営推進会議の議事録を提出し、ホームの状況を都度報告しています。また困難ケースがあれば、その都度、市の担当者に相談をしています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修には必ず参加するようにし、無い場合は年に1回 職員全員が内部研修で知識を得て、拘束しないケアを実践している。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、ご利用者への声かけの方法についても職員会議で検討するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修には必ず参加するようにし、無い場合は年に1回 職員全員が内部研修で知識を得て、職員全員で見過ごす事の無い様に、身体状況の把握はもちろんの事 心理的・経済的な部分に置いては把握に努めている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、必要性の理解に努めている。今後も年に一回は内部研修を行っていく 必要な方はサービスを利用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者様、またはご家族に十分に説明し納得していただいてから契約をおこなっている。 不安や疑問点は、何度でも説明し納得していただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員は毎月1時間個室にて、入居者様の意見・要望をじっくり聞くようにしている。玄関に苦情箱ではなく意見が出やすいようにアンケート箱を設置している。また面会者などにはこちらから積極的に話しかけ、意見や要望を聞くようにしている。	ご利用者の要望については、毎月担当者が1時間居室にて個別に確認するようにしています。また、ご家族の要望については運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、新年会にはご家族にも参加していただくなど、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やリーダー会議で意見や提案を聞き、また職員用のアンケート箱を設置して意見が出やすい環境を作っている。	職員からの意見や提案については、2ヶ月に1度の全体会議や毎月のリーダー会議で確認しているほか、勤務時間や各担当居室のコンテストなどのアンケートも実施するなど、職員の声を聞く機会を設けています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己評価を行っている。また管理者は職員とヒアリングを行い、職員の意見を聞き入れ、働きやすい環境を整えるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加しやすいように調整し勉強の機会を作っている。また研修案内を開示し自主参加も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や交流会に積極的に参加し、また交流会を企画したりしている。スタッフの外部施設研修も必要時行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前にご本人より今後の生活に関する希望や意向の聞き取りを行い、不安無く安心してご利用できるよう務めている。また体験入所等 安心できる関係作りに配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご家族よりこれまでの生活歴や意向要望の聞き取りを行い、不安無く安心してご利用できるよう務めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて何度も面談や電話での聞き取り、担当のケアマネ等と連絡を取り、必要な支援・対応を見極めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように助け合い、家事分担もして生活している。入所者様から様々な事を学び感謝の心を持ちながら接するようにしている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への手紙を毎月担当職員が作成し生活状況を伝えている。変わった状態が見られればその都度電話連絡し状況を伝えている。一部行事に参加を促したり、協力医療機関以外の受診はご家族にお願いして共に支えあうようにしている。	事業所広報を2ヶ月に1度送付しているほか、担当職員からもご利用者の生活の様子をまとめたお手紙を毎月送付しています。受診や温泉旅行、外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族に会いたい場合は、状況に応じて、電話連絡し会う機会をもてるように努めている。希望時には自宅や馴染みの美容院や床屋にも行くようにしている。	馴染みの美容室へ出かけたり、スーパーへ買い物に出かけたり、事業所の行事に知人を招待するなど今までの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についても事業所広報にてご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや一緒に家事をしたりして、関わり合いをもてるように支援している。また食事の席など関係性を考えながら配置して、一人ひとりが孤立せずに支え合えるような支援に努めている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設が変わっても、必要に応じて面会に行ったりしている。ご家族にもいつでも相談してかまわない旨を説明し相談できる体制を整えている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は本人に面談し思いや希望を把握し、希望に添えるように努めている。また担当職員も月に一度はゆっくりと話をする時間を設け希望や意向の把握に努めアセスメントに活かしている。。	担当職員は毎月1時間は各居室にてご利用者の意向の確認をしているほか、日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントの目的や必要性の説明をして無理の無い範囲で本人や家族、状況に応じて民生委員や担当ケアマネから生活歴などの情報をもらっている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度はアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを把握し、月に1度のモニタリングやユニット会議で、スタッフで話し合い現状の把握と変化が見られたときは、その対応を検討し情報共有を図っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしを把握し、変化が見られたときは、スタッフで話し合い 情報共有を図っている。ユニット会議や担当者会議をおこないながら本人・ご家族の意向を十分に確認しながら計画を作成している。	モニタリングを毎月ユニットリーダーが行い、その後管理者も確認しています。6ヶ月に1度のサービス担当者会議ではご家族にも参加して頂き、意向に沿った介護計画を作成しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく分りやすく活かし少しでもいつもと違えばお互いに報告している。介護経過記録を記入し職員間で情報を共有しモニタリングやアセスメントの見直しで実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体や精神状態の変化に伴い、通院や買い物支援及び代行等、御家族と相談したりしながら柔軟なサービス提供を心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方のボランティアや歌・踊りの受け入れ、保育園との交流などをおこなっている。消防署立会いの元、避難訓練や救急蘇生法の訓練も行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を確認し、当ホームの協力医療機関か、今までのかかりつけ医かの希望を確認し診てもらっている。また協力医療機関に関しては通院や往診など行い、状況により大病院の紹介状も書いてもらっている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、協力医療機関の受診については職員が付き添い、その他の医療機関の受診については、ご家族に協力してもらっています。ケース記録に受診の状況を記録し、職員間で情報を共有しており、ご家族にもお手紙で受診の状況を伝えています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職は居ないが、協力医療機関の看護師は入所者の顔や状態を覚えていてくださり、相談できる関係を築いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中は病院の相談員または看護師と密に連絡を取り合っている。また広報誌の配布などで時間を作り入院以外にも情報交換などの相談もできるような関係作りをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した場合や終末期の話をおこない納得して頂いてもらっている。さらに体調の変化があれば常にご家族と連絡を取り合い、医療的措置など必要時には関係機関と相談しながら適切な対応をしている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、関係機関とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し救急蘇生法や避難訓練を定期的に行い、実践力を身に付け対応できるようにしている。	緊急時・事故発生のマニュアルの見直しの機会を持ったり、消防署職員より救命講習も受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、避難訓練を定期的に行い、運営推進会議でも地域の協力を得られるように話し合いをおこなっている。地域で自衛消防組織を計画中で、当社取締役が町内の役員も兼ねており当ホームの支援についてお願いしている。	年2回夜間を想定した避難訓練を行なっています。災害時に地域の方の協力も得られるよう、自主防災組織の立ち上げも検討しているところです。	全ての職員に非常用食品の所在を周知し、災害時に適切な対応をとれるように検討されることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が部屋に居なくても、必ず本人の了解を得て入室し掃除等を行う。入浴介助の際は脱衣場に鍵を掛けプライバシーに配慮している。常に相手を尊重しプライバシーを損ねないように声の大きさや、態度、状況や雰囲気を考えて声かけや対応をしている。職員一人ひとりに守秘義務の誓約書を交わしている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についても契約時に口頭で確認しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた態度で相手が話しやすい雰囲気を作り、希望を言いやすい状況・雰囲気を作るようにしている。自分で決定しやすいように詳しく説明をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など決まっていはいはいるが、無理な声かけはせずに、起床時間や入浴時間等遅くても、本人のペースに合わせて生活できるように対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が来てくれ好みのカットにしてくれている。化粧品や衣類など一緒に買い物に行き、本人の希望・好みのものを使用するように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じた準備や手伝いをして頂き、盛り付けや片付けを一緒に行っている。可能な限り季節の食材や料理を提供し楽しんでいただけるようにしている。献立は入所者の希望を取り入れながら作成している。	ご利用者の能力に応じて調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でも大根やなすなどの野菜をつくっており、収穫をご利用者と一緒に楽しんでいます。献立についても、ご利用者の希望のメニューを確認し作成しています。外食に行く機会も取り入れるなどしてご利用者に食事を楽しんで頂けるよう取り組んでいます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを毎食行い、体重の気になる方は説明した上で、少なめにしたり、水分をしっかりと取っているかチェックしたりして健康管理をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。自分で出来ない方や上手く出来ない方には個別に手伝って対応している。義歯の方は夕食後入れ歯を洗浄剤にて消毒している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンなどを話し合い、その方の状態に合わせて、声かけや介助をおこない、可能な限りトイレで排泄できるようにしている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員がそれぞれの排泄リズムを理解し、排泄チェックを行い、水分チェックもして水分量もしっかり取れるように対応している。テレビ体操などで体を動かせるようにして便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同姓介助やゆっくり入浴できるように、可能な限り個々の希望やタイミングを考え入浴してもらっている。希望があれば毎日入浴でき、体調が悪かったり気分がのらない場合には次の日に入浴していただいている。	ご利用者の希望に添った時間帯や回数に合わせて入浴支援しています。月岡温泉の足湯に出かける機会もあり、ご利用者に温泉を楽しんでいただきました。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は職員が話し相手になったりし暖かい飲み物を持って行ったりしている。居室内の温度を調節したりして、気持ち良く休めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前・日付・服薬時間の確認をして本人に手渡ししっかり服薬できるように支援している。薬の内容については薬の説明書や申し送り、目的等の把握をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や生活歴を考えながら掃除や調理等の役割をもって生活できるように支援している。行事活動や好きな物を買いにいたりして、楽しみやの確保や気分転換を図れるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆や正月には御家族と相談し外出・外泊の相談をおこなっている。スタッフや家族と外出して食事をしたり買い物に行ったり、自宅に戻って仏壇参りなどをおこなっている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見やあやめ祭り、紅葉狩りなどのイベントとしての外出も実施しています。	ホームの外出行事の際にはご家族にも声を掛け、交流の機会として活用されることを期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や御家族と相談しながら一部管理できる方は自己管理し、不安でホームで管理している場合は必要時のみ本人に渡し自分で支払い等できるように対応している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時随時、電話や手紙のやり取りは行っており、スタッフが番号を押す介助をしたり自由に電話ができる体制を整えている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じてもらえるように、飾りなどで工夫している。温度や明かりなどその時の状況に応じ不快にならないように調整している。	共有スペースはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。掲示物も季節に合わせて変えています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは各居室で思いのまま過ごせるようにしている。ソファやテーブルの位置を考えくつろぎやすい様に配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、御家族と相談しながら、馴染みの物を持って来てもらったり、好みの物や必要なものを入所者と担当者が一緒に考え居心地良く過ごせるようにしている。	居室には、ベッドやタンス、掛け軸など、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じて、トイレや自分の居室を分りやすく表示したり、紙パンツ等も取りやすいように配置しパットもフタ付きのゴミ箱を用意し捨てやすいようにしている。できる事は可能な限り行ってもらっている。		